



オリンピック2大会連続メダリスト。引退後は様々な社会的活動によりスポーツ界の発展に貢献。

有森裕子氏

Yuko Arimori

1966年岡山県生まれ。就実高校、日本体育大学を卒業して、(株)リクルート入社。バルセロナオリンピック、アトランタオリンピックの女子マラソンでは銀メダル、銅メダルを獲得。2007年2月18日、日本初の大規模市民マラソン『東京マラソン2007』でプロマラソンランナーを引退。1998年NPO法人「ハート・オブ・ゴールド」設立、代表理事就任。2002年4月アスリートのマネジメント会社「ライツ」(現・株式会社RIGHTS。)設立。国際オリンピック委員会(IOC)スポーツと活動的委員会委員、スペシャルオリンピック日本理事、日本陸上競技連盟理事。これまで、国際陸連(IAAF)女性委員会委員、国連人口基金親善大使、笹川スポーツ財団評議員、社会貢献支援財団評議員等の要職歴任。2010年6月、国際オリンピック委員会(IOC)女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。同12月、カンボジア王国ノロドム・シハモニ国王陛下より、ロイヤル・モニサラボン勳章大十字を受章。

主催者代表挨拶



豊橋ロータリークラブ会長
権田 隆実

ロータリークラブは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。本年度豊橋ロータリークラブは創立70周年になります。70年の歴史と伝統を見つめ直し、伝統を作り出し伝えて行くように努め、新しい発想で何か面白いものを作っていければと思います。今回のコロナ禍も人類に与えられた試練と前向きに考え、乗り越えて行くことにより新たなものが生まれるかもしれません。早く正常な生活ができるようになることを切に願っています。



交通事故による後遺症を克服しオリンピック出場を果たした奇跡のアーティスティックスイミング元日本代表(旧:シンクロナイズドスイミング)

石黒由美子氏

Yumiko Ishiguro

1983年10月生まれ。愛知県出身。小学2年生の秋、交通事故に遭遇し、顔面を540針、口の中を260針縫うだけを負った。治療中にテレビで見たシンクロナイズドスイミング(現・アーティスティックスイミング)に憧れ、翌年から競技を始める。記憶喪失や顔面まひ、視力障害、難聴などの様々な後遺症に苦しみながらも、母と二人で夢の舞台であるオリンピックを目指し、2008年北京オリンピックに見事出場を果たした。厳しい練習の傍ら愛知教育大学で幼稚園から高校までの教員免許を取得した努力家。神戸大学大学院を経て現在は奈良女子大学大学院にて『いじめ問題の実態把握とその解決策』をテーマに研究。一方、日本全国の教育機関や企業などで、自身の体験を元にした講演活動も精力的に行ない好評を得ている。



女性としては世界初の難度V14をクリア。競技歴わずか3年でアジアのトップに輝き、現在もアスリートと母親の立場を両立しながら夢を追う。

尾川とも子氏

Tomoko Ogawa

宇宙飛行士を目指して進学した早稲田大学理工学部物理学科を卒業。在学時の2000年、国体山岳競技に誘われたことがきっかけで、クライマーの道へ。2003年「Asian X-games」で優勝し、競技歴わずか3年でアジアのトップクライマーとなった。2006年も同大会で優勝。その後はチャレンジの舞台を自然界の岩場へ移し、2008年4月に日本人女性初となる難度V12を達成。2009年秋より、女性では前人未到の難度V14の岩に挑み始める。数ミリ単位で指や足の位置を研究し続け、2012年10月ついに完登。世界の女性で初となる記録が称賛され、2012年には世界で最も活躍したクライマーに送られる「Golden Piton賞」、2014年には「Golden Climbing Shoes賞」を受賞した。2014年に第1子、2016年に第2子を出産し、現在はアスリートと母親の立場を両立させつつ、「学校にボルダリングウォールを」という夢を追いながら活動



MC担当

DJケチャップ

マラソン大会をはじめとする各種スポーツイベントでのMCや、スタジアムでのスタジアムDJ、ラジオのパーソナリティーなど多岐にわたり活動中。



穂の国とよはし芸術劇場
TOYOHASHI ARTS THEATRE

PLAT 主ホール

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地

豊橋ロータリークラブ事務局

〒440-0075 豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内 TEL 0532-53-3774

